

アガペ No.61 総主事 堤 弘雄

日本人の本性

多くの人々の命を奪い、大切な人や日常生活を奪い去った東日本大震災。バーチャルではなく、現実の出来事の中で多くの若者の心や気持ちが変わったような気がします。公開ツイッターより一部抜粋したメッセージです。

「ホームで待ちくたびれていたなら、ホームレスの人たちが寒いから敷けて段ボールをくれた。いつも私たちは横目で流しているのに。あたたかいです。」

「物が散乱しているスーパーで、落ちているものを律儀に拾い、そして列に黙って並んでお金を払って買い物をする。運転再開した電車で混んでいるのに妊婦に席を譲るお年寄り。これらの光景を見て外国人が絶句していた。」

「警備員の友人何人かが町田～相模大野で夜間警備のボランティアをしていたので手伝ってきた。年齢問わずいろんな知らない人同士が助け合っていて心強かった。ちょっと感動してトイレの隅で泣いた。」

少し恥ずかしがりやで、普段は他者に無関心を装っている日本人。実は「やさしい」という本音を隠して生きていたのかもしれない。大震災という非日常的なギリギリの状況が日本人の本来的持っている素晴らしさ、人間性を浮き彫りにしたように思います。

過去に武器を捨て、平和を誓い、終戦以来、戦争で誰一人として人間を殺していない日本人。無関心を装っているが、本当は思いやりのある心優しい日本人。

震災という人間同士が支え合うことなしには生きていくことができない状況。「お互い様」という言葉が当たり前に使われ出したその先に、豊かさを取り戻した新しい日本が横たわっていることを期待しています。

Photo Album



YMCAユーススポーツフェスティバル 第20回新体操発表会

2011年2月27日(日) 中央みなみむさし 会場/熊本県立総合体育館

音楽に合わせて踊るリズム体操、ボールやリボンを使った手具体操など、総勢約250名が演技を披露しました。

留学生のスピーチ発表会

熊本YMCA学院日本語科では、卒業や進級を控えた3月2日(水)、それぞれの学びの集大成を日本語で伝える発表会が行われました。「予選」を通過した初級から上級クラス11名が、自ら設定したテーマでスピーチ。

ラオス出身のスピーカーさんは「初めて訪れた海外が日本で、自動ドアや路面電車など、見るものすべてが驚きでした。私を支えてくれる人への恩返しに、将来は日本とラオスの架け橋になりたい」と



語りました。

また、陳文浩さんは、自分が関心を持った内容について調査し、パワーポイントを使って発表するプロジェクトワークに挑戦し、中国の流行語にも選ばれた「山寨文化」について発表。「山寨(さんさい)は二セモノやコピーなどの「バクリ」商品を指す言葉で、価格が安く、売出しが早いのが特徴です」と、中国のコピー事例の分析を交えながらスピーチした。



REPORT

発見！自分が輝く色使い

開催日/2011年3月5日(土) 開催場所/中央YMCA

熊本YMCA学院では、専門学校の特性を活かした生涯学習に取り組み、今年度も「心」と「体」をテーマにしたセミナーが企画されています。第3回は、カラーコーディネーターの馬原陽美子さんを講師に、「新発見！自分がさらに輝く色使い」と題して開催。近隣にお住まいの方や会員などが参加し、自己診断テストやカラードレープを当てながら、自分に似合う色・パーソナルカラーを発見しました。「洋服選びの参考にします」「似合う色は欠点をカバーしてくれるんですね」など、色は個性を表す一つであることを学びました。



高齢者に「ふれあい」のお弁当

開催日/2011年3月15日(火)・3月16日(水) 開催場所/中央YMCA・正立寺



毎年春に行われる「新校区「ふれあいの集い」では、一人暮らしの高齢者へ心のこもったお弁当を届けようと、YMCAや長寿会、民生委員、福田病院など地域のボランティアが協力し、お弁当作りを行っています。当日は、様々な食材を使ったお弁当130食が届けられました。食事前に、YMCAのスタッフによる体操レクリエーション指導も行われ、集まった人たちに和やかなひと時を過ごしていました。